

令和4年度～ 西城山小学校学力向上プラン

【学校教育目標】

夢や希望の実現へ向け、生涯を通じて学び、国際社会に貢献できる、徳・知・体調和の取れた個性豊かな児童の育成
～みんなでつくる にししろやま～

【めざす児童像】

○学びあう子

- ・目標を立てて学ぶ子
- ・意欲的に学習に取り組む子
- ・学ぶ習慣を身に付けている子

○おもいやりのある子

○元気な子

○きまりを守る子

【全校目標】

- ① 勉強が好きと感じる児童→8割以上
- ② テスト等評価資料正答率における国語・算数の平均正答率
学級平均9割以上

学力向上のための取組

1. 「西城山学びスタンダード」「授業改善メソッド」「読解力育成プラン」の考え方を基本とした実践
2. 目的や方法を明らかにした対話指導
3. 安心して発言できる支持的風土の醸成
4. 学力テストの分析と検証と改善
5. 本校の実態に応じた「学習のきまり」の徹底「家庭学習の手引き」の活用
6. 基礎学力の定着(eライブラリーの活用)
7. 関心意欲を高める教材の工夫開発
8. 読書の奨励
9. 国語辞典の活用、辞書を引く習慣付け
10. 横断的な学習の成果を生かす場の設定
(総合、特活、交流、地域行事)

【研究主題】

自分の思いや考えをもち、確かな学力を身に付ける子どもの育成
「できた」「わかった」の笑顔あふれる授業
～読解力を育成する研究を通して～

【重点的な取組】

◎学習過程の改善

- ・課題解決のためのねらいに即した対話活動や書く活動の位置づけ
- ・図や表の役割やよさを理解して活用する力、相手意識や目的意識をもって説明できる力の育成
(系統的、継続的指導)

◎基礎・基本の定着

- ・スキルタイムの計画的運用
- ・AIドリルの活用
- ・学力向上プランの見直し、検証

◎読解力の育成

- ・語彙力、漢字力、構文力を低学年から身に付けさせる取組(低学年からの国語辞典活用・辞書を引く習慣付け)
- ・隙間読書の推進
(いつでも本を手にとることができる環境)

◎家庭学習の充実

- ・家庭学習の質と量の検討
(宿題+自主学習)
- ・自主学習のモデル提示
- ・「家庭学習の手引き」の活用
- ・1人1台端末の活用

【児童の実態】

〔授業・家庭学習から〕

- 音読や漢字学習など与えられた課題には真面目に取り組む。
- クロームブックを使った学習には、意欲的に取り組む。
- めあて→思考→まとめといった学習の流れが定着し、ノートに自分の考えをまとめたり、学習を振り返ったりできるようになってきた。
- △語彙が少なく、長文を正確に読むことができない児童が一定数いる。
- △読むこと・書くことに時間がかかり、抵抗を示す児童が多い。
- △挙手して自分の考えを説明することに消極的である。

〔全国学力調査・県学力調査の結果から〕

<国語>

5年：文の中における主述関係に関する問題の正答率が低い。語彙が少なく、文の意味を正確にとらえることができない。
6年：話の中心を捉えて聞いたり、話したりすることが苦手である。

<算数>

5・6年：文章から具体的にイメージしたり、図式化したりすることが苦手。思考を要する問題になると、既習事項と関連させて考えることが難しい。

1 年 学力向上プラン

国語	<p>傾向・実態</p> <p>ひらがな清音の読み書き →C評価 8%</p> <p>ひらがな促音・長音・拗音の書き→C評価 25%</p> <p>文章の読み取り・2文程度の文章を書く→C評価 37%</p>
強み	新しい学習に、興味関心をもって、学習に取り組むことができる。
弱み	ひらがなの習得状況の個人差が大きい。長い文章を読むことを苦手と感じている児童が多い。自分の考えを言葉にして発表することに抵抗を感じている子どもが一定数いる。
弱みの解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携を取り、家庭学習への協力を求める。 ・毎日音読を欠かさない。 ・個人差に応じて、お勧めの本を紹介し、文章を読むことに慣れさせる。 ・授業の中に、自分の考えを書く過程をなるべく多く取り入れる。 ・毎日の家庭学習に、文章を読んで答える課題を増やす。
算数	<p>傾向・実態</p> <p>知識・技能→C評価 4%</p> <p>思考・判断・表現→C評価 25%</p>
強み	課題に対して前向きに取り組む児童が多い。加法、減法の計算方法は、全員が理解している。
弱み	計算のスピードや正確性に、ばらつきがある。 文章題に抵抗を示す子どもが多い。尋ねられている内容を正確に読み取ることが苦手。
弱みの解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルタイムを活用して、計算力の向上を図る。 ・文章問題を読み取る際に、分かっていること、尋ねられていることを、明確にする手順を習慣化し、一人でもその手順で学習できるようにする。 ・文章問題を読み取ったことを、絵や図、表などを用いて整理させる。 ・自分の考えを図式化したり、文章で表現したりする経験を多く積ませる。
読解力対策	<ul style="list-style-type: none"> ・隙間時間を活用した読書を勧め、本を読むことを日常化する。 ・家庭学習を活用して、文章を速く、正確に読み取る練習をする。 ・教科を問わず、教科書や問題文を音読させる。 ・「まず」「つぎに」「だから」など、文と文の順序や接続を表す言葉を使って説明させる。 ・意味が分からない言葉は、国語辞典で調べることを習慣化する。
学びの習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の音読を聞いてもらうよう家庭に協力を依頼し、並行読書についても情報を発信する。 ・学年通信で、学習状況をこまめに伝え、特に、支援が必要な子どもに対しては、保護者との連絡を密にする。 ・家庭学習課題（宿題）を提示し、自主学習にも取り組めるように「家庭学習のすすめ」を紹介する。 ・クロームブックを活用し、家庭で漢字や計算の反復練習に取り組ませる。 ・家庭学習の時間が確保できるよう、家庭での学習環境やルールづくりについて、家庭と情報を共有し、協力を求める。

2年 学力向上プラン

国 語	<p>傾向・実態</p> <p>1学期末評価→(知識・技能) B評価57% C評価11% (思考・判断・表現) B評価65% C評価13%</p>
強 み	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の練習には真面目に取り組む。丁寧に書ける子が増えてきた。 ・読書は好きである。
弱 み	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の習熟に時間がかかる。音読がすらすらできない子がいる。 ・促音や長音などの表記の間違いが多い。 ・人物の気持ちや学習の振り返り等、自分で考えて文章を書くことを苦手とする子がいる。
弱 み の 解 決 策	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルタイムの活用・・・漢字のミニテストを毎週実施する。 ・家庭学習・・・漢字と音読の練習を継続し、習熟を図る。 ・書く活動では、例を提示し、書く視点をもたせる。 ・ふりかえり等は学級で交流し、書き方に慣れていけるようにする。 ・国語辞典を活用して、語彙を増やすようにする。
算 数	<p>傾向・実態</p> <p>1学期末評価→(知識・技能) B評価65% C評価11% (思考・判断・表現) B評価67% C評価15%</p>
強 み	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の学習は好きで、練習問題等は喜んで取り組む。
弱 み	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の計算に時間がかかる子が多い。間違いも多い。 ・文章題の意味がつかめず、立式を間違える子が多い。
弱 み の 解 決 策	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルタイムの活用・・・時間を計りながら計算を繰り返し行い、速さを意識させる。 ・家庭学習・・・文章題に取り組み、問題に慣れさせる。 ◎計算・・・計算カードを用いて、毎日家庭での反復練習をする。
読 解 力 対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・読書・・・自分に合った本を選ぶように助言し、じっくりと本を読む時間を作る。 朝や課題が終わった時など、「すき間読書」を習慣にしていく。 ・家庭学習・・・読解問題に取り組み、問題に慣れさせる。 ・分からない言葉は、国語辞典で調べる習慣をつけさせる。
学 び の 習 慣 化	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会や学年だよりなどで、児童の様子や学習内容を伝える。 ・毎日の音読宿題に保護者のサインや評価をしてもらう。 ・家庭学習の課題(宿題)を提示すると共に、「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の習慣化を呼び掛ける。 ・クロームブックを活用し、家庭での漢字や計算の反復練習に取り組みさせる。

3年 学力向上プラン

国語	<p>傾向・実態 (全国) 標準学力調査より 69.8% (67.1%) ○話す・聞く 80.0% (82.6%) ○書く 45.2% (39.2%) ○読む 73.0% (68.0%) ○言語 81.8% (80.6%) ◎ (知識・技能) 76.2% (74.8%) ◎ (思考・判断・表現) 64.6% (60.8%)</p>
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や漢字などの決められた課題には真面目に取り組む。 ・読書が好きな児童が多い。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・長文を読むことに抵抗を示す子がいる。 ・書くことに時間がかかる子がいる。 ・漢字を正確に読み書きできない子がいる。
弱みの解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルタイムで漢字の習得を確認する。 ・板書をノートに写す時は、教師と同じペースで写すように指導する。 ・読書の質をあげ、長文も読めるようにする。図書室での本を借りる時は、読み物を必ず1冊は選ぶように指導する。 ・読書記録を付けさせる。 ・週末に家庭学習で作文に取り組ませる。
算数	<p>傾向・実態 (全国) 標準学力調査より 75.3% (73.9%) ○数と計算 76.4% (75.8%) ○図形 64.0% (63.2%) ○測定 77.7% (76.9%) ○データの活用 80.0% (75.9%) ◎ (知識・技能) 77.5% (76.0%) ◎ (思考・判断・表現) 66.0% (64.9%)</p>
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・計算学習、復習問題中心の毎日の課題には真面目に取り組む。 ・めあてやまとめをノートに書くことに慣れたきた。 ・自分の考えをノートに書こうとする気持ちが高まってきた。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の状況把握ができない。 ・拳手をして自分の考えを説明することに消極的である。 ・簡単なたし算、ひき算を速く確実に行うことが苦手である。
弱みの解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、自分の考えをペアや少人数の中で伝える時間を設けるようにする。 ・スキルタイムでパソコンのドリルを使い、基礎学力の向上を図る。 ・文章問題を読み取ったことを、絵や図、表などを用いて整理させる。 ・授業の振り返りを書く機会を増やす。 ・「まず」「つぎに」などの言葉を使いながら説明ができるようにする。
読解力対策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの説明や授業の振り返りなど文章を書く機会を増やす。 ・読書タイムだけでなく、隙間時間を利用して本に触れる時間を増やす。 ・国語辞典で調べる習慣を付けさせる。 ・算数の文章問題を解く時に、必要な数や言葉に印を付けさせたりして、問題の意味を理解させるようにする。
学びの習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会や学年だよりなどで、児童の様子や学習内容をこまめに伝える。 ・毎日の音読の宿題に保護者のサインや評価をしてもらう。 ・家庭学習課題(宿題)を提示すると共に、「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の習慣化を呼び掛ける。 ・クロームブックを活用させる。

4年 学力向上プラン

国語	<p>傾向・実態 (全国)</p> <p>標準学力調査より 71.5% (68.0%)</p> <p>○話す・聞く 66.0% (64.4%) ○書く 72.1% (57.0%) ○読む 64.0% (61.9%)</p> <p>○言語 88.4% (84.6%) ◎ (知識・技能) 71.4% (70.1%) ◎ (思考・判断・表現) 66.8% (61.4%)</p> <p>◎ (主体的に学習に取り組む態度) 75.3% (59.1%)</p>
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や漢字などの決められた課題には真面目に取り組む。 ・読書に興味がある児童が多い。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・長文を読むことに抵抗を示す子がいる。 ・書くことに時間がかかる子がいる。 ・漢字を正確に読み書きできない子がいる。
弱みの解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルタイムで漢字の習得を確認する。 ・板書をノートに写す時は、教師と同じペースで写すように指導する。 ・読書の質をあげ、長文も読めるようにする。図書室での本を借りる時は、読み物を必ず1冊は選ぶように指導する。 ・読書記録を付ける。
算数	<p>傾向・実態 (全国)</p> <p>標準学力調査より 73.5% (73.1%)</p> <p>○数と計算 73.1% (72.6%) ○図形 57.7% (63.4%) ○測定 81.9% (78.8%)</p> <p>○データの活用 96.5% (88.2%) ◎ (知識・技能) 77.6% (76.9%)</p> <p>◎ (思考・判断・表現) 59.1% (59.4%) ◎ (主体的に学習に取り組む態度) 74.1% (72.4%)</p>
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活かして考えようとする児童が多い。 ・計算学習、復習問題中心の毎日の課題には真面目に取り組む。 ・めあてやまとめをノートに書くことに慣れてきた。 ・自分の考えをノートに書こうとする気持ちが高まってきた。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・図形が苦手な児童が多い。 ・挙手をして自分の考えを説明することに消極的である。 ・簡単なたし算、ひき算が速く確実にできることが苦手である。(特にひき算)
弱みの解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、自分の考えをペアや少人数の中で伝える時間を設けるようにする。 ・まとめや算数の授業始まりの5分を計算学習にあてる。 ・スキルタイムで基礎的な計算練習をする。
読解力対策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの説明や授業の振り返りなど文章を書く機会を増やす。 ・読書タイムだけでなく、隙間時間を利用して本に触れる時間が増やす。 ・自主的に国語辞典で調べる習慣を付けさせる。 ・算数の文章問題を解く時に必要な数や言葉に印をさせたりして、問題の意味を理解させるようにする。
学びの習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会や学年だよりなどで、児童の様子や学習内容をこまめに伝える。 ・毎日の音読宿題に保護者のサインや評価をしてもらう。 ・クロームブックを活用する。 ・家庭学習課題(宿題)を提示すると共に、「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の習慣化を呼び掛ける。

5年 学力向上プラン

国 語	<p>傾向・実態</p> <p>『長崎県学力調査結果』（全体正答率…67.3%（県…64.6% 市…65.1%） 無回答率…0%）</p> <p>○【話すこと・聞くこと】→正答率 76.0%（県…70.5% 市…71.6%） 【書くこと】→正答率 50.3%（県…50.4% 市…52.5%）</p> <p>【読むこと】→正答率 50.8%（県…47.4% 市…47.6%） 【知識及び技能】→正答率 67.3%（県…64.6% 市…65.1%）</p> <p>○【思考・判断・表現】→ 60.0%（県…57.2% 市…58.4%） 【知識・技能】→ 74.6%（県…72.0% 市…71.8%）</p>
強 み	<ul style="list-style-type: none"> ・【話すこと・聞くこと】は、県、市と比べて4～5%正答率が高い。 ・読書に興味がある児童が多い。
弱 み	<ul style="list-style-type: none"> ・【書くこと】は、市と比べて2%ほど正答率が低い。 ・文の中における主語と述語との関係に関する問題の正答率が低い。 ・語彙が少なく、文の意味を正確にとらえることができない。 ・段落の関係や文章全体の構成に注意しながら読むことが難しい。 ・尋ねられていることに対して適切に解答することが難しい。
弱 み の 解 決 策	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったことや自分の考えを書く活動を意図的に取り入れた授業を行う。 ・主語や述語を明確にして書かせる。 ・条件作文や日記等の課題に取り組みさせる。（クロームブックも活用） ・読書の質をあげる。担任が読ませたい本を紹介する。
算 数	<p>傾向・実態</p> <p>『長崎県学力調査結果』（全体正答率…62.5%（県…60.9% 市…61.6%） 無回答率…0%）</p> <p>○【数と計算】→正答率 59.4%（県…57.5% 市…58.9%）【図形】→61.5%（県…58.7% 市…61.1%）</p> <p>【測定】→正答率 66.1%（県…69.1% 市…69.5%）【変化と関係】→正答率 68.0%（県…62.7% 市…62.2%）</p> <p>【データの活用】→65.2%（県…63.9% 市…63.2%）</p> <p>○【思考・判断・表現】→正答率 54.4%（県…52.7% 市…52.3%）【知識・技能】→65.9%（県…64.5% 市…65.6%）</p>
強 み	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習に意欲的に取り組む児童が多い。 ・四則演算は定着している児童が多い。
弱 み	<ul style="list-style-type: none"> ・発表する児童が固定されている。 ・思考を要する問題になると既習事項と関連させて考えることが難しい。 ・文章から具体的にイメージしたり、図式化したりすることが苦手な児童が多い。
弱 み の 解 決 策	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを発表するために、ほめたり、励ましたりすることを意図的に行う。 ・問題を解くための見通しを持たせるために、既習事項を提示したり、振り返らせたりする。 ・問題文に下線を引かせたり、印を付けさせたりすることで、問題文の理解を促す。 ・図や数直線を板書することで、良さを味合わせながら、書き方に慣れさせる。 ・週末に練習問題を宿題として出す。問題に慣れさせる。
読 解 力 対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科や算数科で分かったことや自分の考えを書いたり、友達に説明したりする機会を増やす。 ・社会科や理科で、グラフ、表と文章を関連させて読み取る学習にも力を入れる。 ・分からない言葉は、国語辞典で調べる習慣を付けさせる。 ・隙間時間を活用した読書を勧め、本を読むことを日常化する。
学 び の 習 慣 化	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会や学年通信などで、児童の様子や学習内容を伝える。 ・家庭での読書が習慣付くように協力を依頼する。 ・家庭学習課題（宿題）を提示すると共に、「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の習慣化を呼び掛ける。 ・クロームブックを活用する。

6年 学力向上プラン

国 語	<p>傾向・実態</p> <p>『全国学力・学習状況調査結果より』（全体正答率…64.0% 無回答率…3.7%）</p> <p>【話すこと・聞くこと】→正答率57.6% 【書くこと】→正答率53.4%</p> <p>【読むこと】→正答率64.0% 【言語事項】→正答率68.5%</p> <p><問題形式別正答率>（選択）…69.5%（短答式）…65.5%（記述式）…49.2%</p>
強 み	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で、書く活動を意図的に仕組んだことで「書くこと」の力がついてきた。 ・無回答率は県、全国平均より低く、あきらめず取り組むことができる児童が増えた。
弱 み	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」に関して、話の中心を捉えて聞いたり、話したりすることが苦手。 ・自分の意見を表現するという点で、消極的な姿勢の児童がいる。
弱 み の 解 決 策	<p><授業で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・結論から話すことや話型を意識させ、話の要点のつかみ方や伝え方に慣れさせる。 ・考えを伝えたり、受け止めたりするなど、表現する手段や機会を増やし、苦手意識を和らげていく。 <p><家庭学習で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者パソコン等を活用し、考えや感想を表現する活動を多く取り入れる。
算 数	<p>傾向・実態</p> <p>『全国学力・学習状況調査結果より』（全体正答率…63.0% 無回答率…2.1%）</p> <p>○【数と計算】→正答率68.9% 【図形】→正答率66.1%</p> <p>【測定】→領域無 【変化と関係】→正答率50.0% 【データの活用】→正答率70.6%</p> <p>○【知識・技能】→68.0% 【思考・判断・表現】→55.9%</p>
強 み	<ul style="list-style-type: none"> ・「データの活用」に関しては、だいたい理解できている。 ・課題に対して最後まであきらめず、集中して取り組むことができる。
弱 み	<ul style="list-style-type: none"> ・思考を要する問題になると既習事項と関連させて考えることが難しい。 ・文章から具体的にイメージしたり、図式化したりすることが苦手な児童が多い。 ・基本的な計算の仕方を十分に習得できていない子が数名いる。 ・式と言葉を使って説明を書くことが苦手である。
弱 み の 解 決 策	<p><授業で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解くための見通しを持たせるために、既習事項を提示したり、振り返らせたりする。 ・図や数直線の良さを味わわせながら、書き方に慣れさせる。 ・授業の中で時間を指定して、図・式・絵・言葉を使って書く活動を多く取り入れる。 <p><家庭学習で></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、復習プリントに取り組み、計算の仕方をしっかり身に付けさせる。 ・自主学習で予習に取り組み、学習への意欲を高める。
読 解 力 対 策	<p><文章を読む>・読書活動の推進 隙間読書の習慣化 音読の継続</p> <p><辞書の活用>・語彙力向上のため、積極的に辞書を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科や理科で、グラフや表を読み取る学習にも力を入れる。
学 び の 習 慣 化	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会や学級通信などで、児童の様子や学習内容をこまめに伝える。 ・家庭での読書や音読の習慣が付くように家庭に協力を依頼する。 ・家庭学習課題（宿題）を提示すると共に、「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の習慣化を呼び掛ける。 ・家庭学習の質と量を振り返ることができるように学習時間を記録し、懇談会や個別の面談等で話題に挙げる。 ・クロームブックを活用する。